

2020 年 5 月 22 日

The Emerging Markets Weekly

資源国通貨と高金利通貨が上昇

新興国市場:先週末の 15 日は、大半の新興国通貨は狭いレンジで推移。中国の 4 月主要経済指標から中国景気の緩やかな持ち直しが示されたものの、米中対立の再燃への懸念が重しとなった。PHP は同日発表された、フィリピン 2 月海外送金が予想を下回る結果となったことを受け売られた。また、BRL もブラジル 3 月経済活動指数が前月比▲5.9%と 2003 年統計開始以来の最大の落ち込みとなり、売りが加速した。週初 18 日、新興国通貨はアジア時間で小動きとなったが、NY 時間に入り堅調な推移をみせた。米製薬会社がワクチンの初の臨床試験で有力な初期兆候を示したことを発表したほか、中国の石油需要が新型コロナウイルス感染拡大前の水準をほぼ回復したと伝わり、市場にリスクオンムードが広がった。BRL は前日比+2.5%、ZAR と RUB も前日比+1.0%以上値を上げた。19 日、前日のリスクオンムードが継続。大半の新興国通貨は買い優勢となった。TRY はスワップ協定への期待を背景に前日比+1.6%上昇した。一方、ブラジルの新型コロナウイルス感染者数が世界 3 位となったことが BRL を押し下げた。20 日、新興国通貨はアジア時間で小幅な動き。ただ、NY 時間に入り、世界的な需要回復期待から原油価格が上昇したことに加え、銅価格も堅調に推移したことを受け、資源国通貨や高金利通貨が買われた。ZAR と RUB は前日比+2.0%超、MXN と BRL も同+1.0%超上昇した。21 日、翌日からの中国の全国人民代表大会を控え、新興国通貨はアジア時間で小動き。NY 時間に入り、ブラジル中央銀行(BCB)が為替介入を継続する意向を示したことを受け BRL は前日比+2.5%上昇。ZAR は南アフリカ準備銀行(SARB)の利下げによる景気下支えの姿勢を好感し前日比+1.9%まで値を上げた。

アジア:インドネシア中央銀行(BI)は 19 日、政策金利を市場予想に反して 4.50%に据え置くことを決定した。現行の金利水準は市場の安定確保を目指す BI の方針に沿うものであると説明しつつ、依然として利下げ余地はあるとした。タイ中央銀行(BOT)は 20 日、政策金利を 25bp 引き下げ過去最低の 0.50%とした。声明文によれば、大半の政策委員が、既に決定済みの財政・金融政策に加え、一段の金融緩和が経済への悪影響軽減に繋がるとの認識を示した。

中東欧・アフリカ:南アフリカ準備銀行(SARB)は 21 日、政策金利を 50bp 引き下げ 3.75%とした。SARB は 2020 年の南アフリカ経済成長率を▲7%と予想。利下げにより消費や雇用に対する圧力が緩和されとの見方を示した。トルコ中央銀行(CBRT)は 21 日、政策金利を 50bp 引き下げ 8.25%にすることを決定した。利下げは 9 会合連続となったが、CBRT はトルコ経済は新型コロナウイルス感染拡大による影響の最悪期を脱した可能性があるとの認識を示した。

ラテンアメリカ:ブラジルのタイシ保健相は 15 日に辞任することを発表した。新型コロナウイルスの感染拡大防止を巡り、早期の経済再開を主張するボルソナロ大統領と政策方針の違いが理由。同氏は 4 月 16 日に解任されたマンデッタ前保健相の後任として就任したばかりだった。

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

堀 亮大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(メキシコ)

政府の経済対策の遅れを、中銀の金融政策が補う構図

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

メキシコ中央銀行(Banxico)は 5 月 14 日、金融政策決定会合を開催し、政策金利(翌日物金利)を従来の 6.00%から 5.50%へと 50bp 引き下げを全会一致で決定した(図表 1)。2019 年 8 月以降、8 会合連続の利下げとなり、利下げ幅は計 275bp となった。引き続き景気下振れリスクが根強い点が、追加利下げの理由とみられる。

Banxico は声明文で、新型肺炎の感染拡大による経済活動の停滞が 1~3 月期に顕在化したことを確認。その上で、新型肺炎の感染拡大による経済面の影響がどの程度の規模と期間になるか依然として不明なこと、4~6 月期にその影響がさらに深刻化して著しい雇用減をもたらす見通しに言及した。4 月の臨時会合時点よりも、Banxico の先行き警戒感は増したようだ。

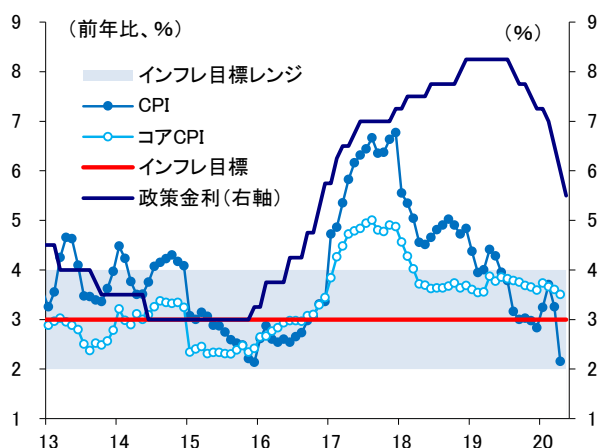
新型肺炎の感染拡大は 3 月以降、メキシコにも波及。政府は 3 月 30 日に非常事態を宣言した。4 月 5 日、政府は経済対策を発表したが、経済界の求める措置はほぼ含まれず、社会的弱者の支援を中心に GDP 比 1.6%の規模にとどまった。景気の先行き不安は一層深まり、企業マインドはさらに低下、雇用は失われつつある。ソブリン格付けの見直しが進められ、MXN は最安値を更新した。

これらを経済指標で確認すると、1~3 月期の実質 GDP は前期比▲1.6%と 5 四半期連続のマイナス成長に終わった。市場サーベイでは、4~6 月期の成長率見通しは前期比▲5%程度から、1 桁後半のマイナス成長へと見通しが下方修正されつつある。また、財務行政機構(IMEF)の調査によれば、4 月の企業マインドは製造業・非製造業共に過去最悪の水準を更新。4 月の民間部門・正規雇用者数は前月比▲55.5 万人と、単月ベースでは同統計の集計が始まった 1997 年以来、最大の減少幅となった。

この間、一貫して景気下支えを担ってきたのが Banxico である。4 月の臨時会合開催も含めて、追加利下げや流動性支援策の拡充に取り組んできた。今会合における声明文には、経済データのほか生産活動にもたらされた大きな衝撃や金融市場の動向を考慮しながら「必要な手段を講じる」との文言が残された。おそらく実行を迫られるだろう。国内では感染拡大の動きが本格化(図表 3、4)。米国経済に正常化への動きがあるものの、肝心の自動車産業の操業再開を巡ってメキシコ政府の決定は二転三転する等、現政権の経済運営への信頼感は乏しい。

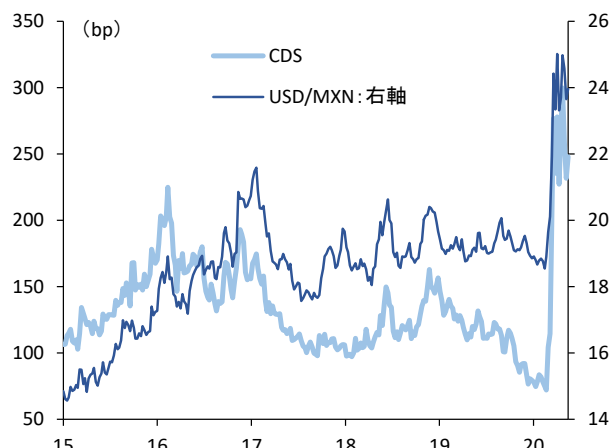
このような中で、MXN に持ち直しの動きがみられるのは、中国や欧米諸国における経済活動の正常化への動きや原油価格の持ち直し、ドル調達を巡る逼迫感緩和といった外部要因の改善によるところが大きい。また、FRB の矢継ぎ早な金融緩和策の前に Banxico の対応が霞んでいるところもあるかもしれない。ただ、今後は、海外送金の鈍化等の実需面での逆風も考慮しておくべきだろう(図表 5、6)。MXN の持ち直しペースは緩やかなものにとどまると考えておきたい。

図表 1: 政策金利とインフレ率



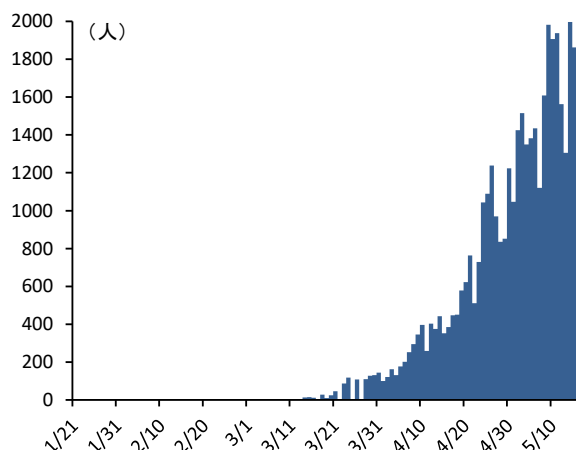
出所: メキシコ中央銀行、地理統計院、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: メキシコのソブリン CDS (5 年物) と USD/MXN



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

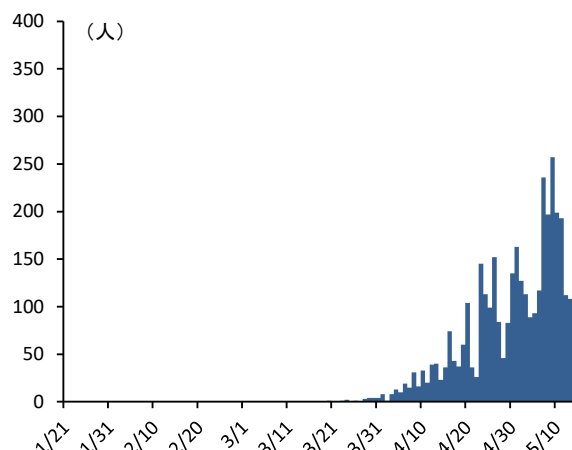
図表 3: メキシコにおける新型コロナウイルスの新たな感染者数



(注) 2020年5月15日時点

出所: WHO、CEIC、みずほ銀行

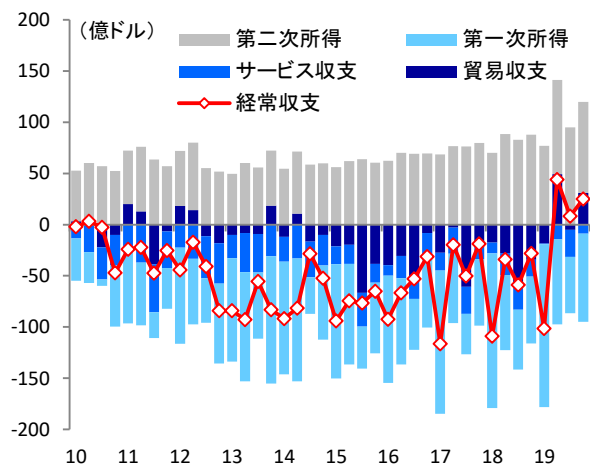
図表 4: メキシコにおける新型コロナウイルスによる新たな死亡者数



(注) 2020年5月15日時点

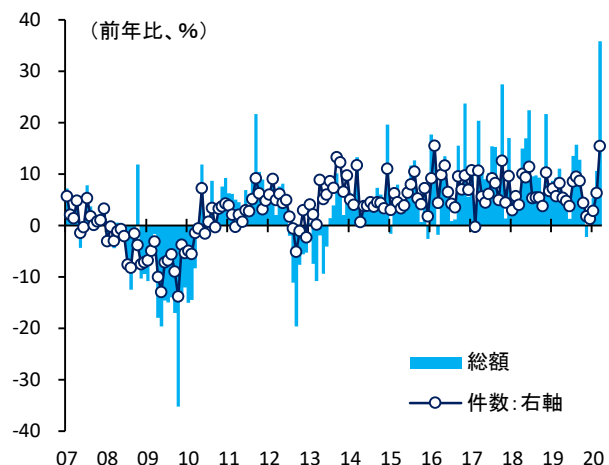
出所: WHO、CEIC、みずほ銀行

図表 5: 経常収支と内訳



出所: メキシコ中央銀行、CEIC、みずほ銀行

図表 6: 労働者による海外からの送金



出所: メキシコ中央銀行、CEIC、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

5 月金融政策会合～市場予想に反し利下げは見送り

市場営業部
堀 堯大

03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア中央銀行(BI)は 5 月 19 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 4.50%に据え置くことを決定した(図表 1)。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も 5.25%と 3.75%の現状維持とし、コリドーを 1.50%pts に維持した。なお、ブルームバーグの事前予想では 25bps の利下げ予想が大方を占めており、25 人中 6 人が現状維持を見込んでいた。

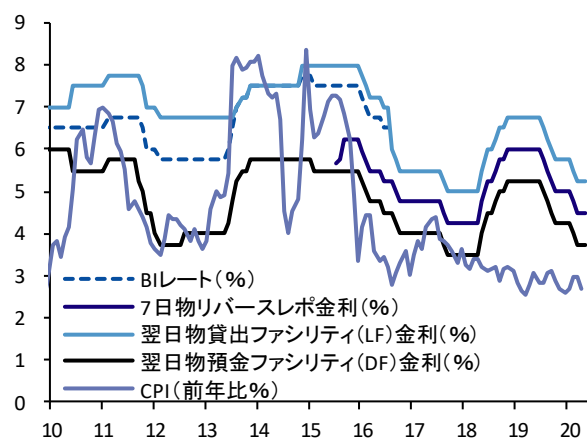
声明文では、新型コロナウイルスの感染拡大が進み、世界経済が減速する見込みが強まっている中でも、現行の金利水準は市場の安定確保を目指す BI の方針に沿うものであるとし、特に直近で変動の大きかった為替相場への影響を考慮した判断であったことを説明した。ただし、BI は政策金利の引き下げは見送ったものの、今後も中小企業向けに資金供給を強化することをはじめ、金融緩和を維持していくことを強調した。

今年の GDP 成長率について、前回会合にて年初の予定を大幅に下回る前年比 +2.3%まで引き下げる見解を示したが、今回はさらにその水準も下回る可能性を示唆した。20 年 1～3 月期の GDP 成長率は同+2.97%と、前年の同+4.97%から大きく減速し、新型コロナウイルスが様々な業種に影響を及ぼしている状況となっている。加えて、物価水準も引き続き停滞が続いており、BI も経済成長を支える必要から、追加の利下げの可能性を残すものとしている。一方で、利下げ決定が相場に影響を及ぼすことを BI は嫌厭している印象があり、今後経済に更なる打撃を与えるイベントが発生しない限り、利下げには慎重な姿勢が続くそう。

また、今回会合では、これまで焦点が当てられていた景気減速や今後の見通しよりも、中銀として自国の市場機能の維持と金融・為替市場において十分な流動性を確保するための運営を続けていくことが強調された。声明文内でも、一時的に外貨準備の残高が減少したものの、依然として今後の運営に支障を及ぼさない健全な水準を維持している点が言及されている。

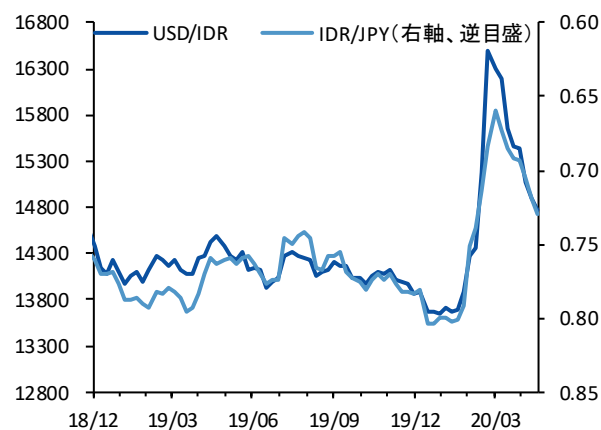
IDR は新型コロナウイルスの感染が世界的に本格化した 3 月以降、不安定な値動きが続いている(図表 2)。新型コロナウイルスのほか原油価格の急落の影響を強く受け、一時過去最安値を更新した。一方、BI は、現在 IDR は割安であると判断しており、5 月に入り徐々に値を戻す展開となっている。BI は今後について世界と自国の経済が回復する度合いに応じて、徐々に値を上げていく見解を示した。ただし、IDR は経常赤字と財政赤字が常態化し、リスクオフ時には特に売られ、過小評価されやすくなる性質を持つ。今回のようなリスクオフ下で不安定な相場動向が続く場合には、その乖離幅を把握するために経常赤字と財政赤字の規模感をはじめ、先述した外貨準備水準を含めた基礎的指標を改めて注視していく必要があるだろう。

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: インドネシア中央銀行、インドネシア中央統計局、CEIC、ブルームバーク、みずほ銀行

図表 2: IDR 為替動向(対ドル、対円 5 月 19 日まで)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

市場概観(タイ)

5 月金融政策委員会～政策金利を過去最低の 0.50%へ引き下げ

市場営業部
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

タイ中央銀行(BOT)は 5 月 20 日に金融政策委員会(MPC)を開催し、政策金利を 25bps 引き下げ、0.50%とすることを決定した(図表 1)。BOT は 3 月にも 25bps 政策金利を引き下げており、政策金利は過去最低水準を更新した。なお、MPC では 7 人の委員のうち 4 人が利下げに賛成し、ブルームバーグの事前予想では 24 人中 21 人が 25bps の利下げを見込んでいた。

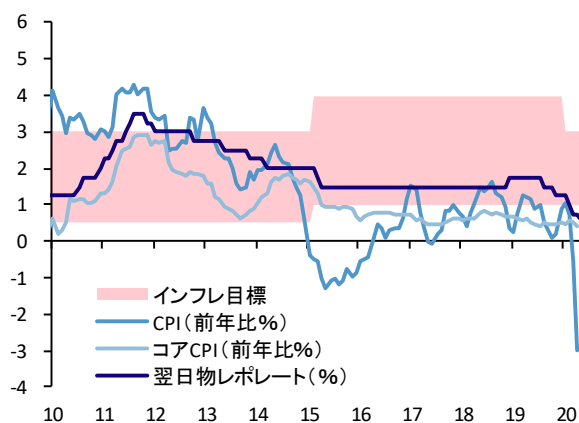
声明文では、前回会合時に続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が深刻化し、予想以上にタイ経済に影響を与えていることを踏まえて利下げを決定したと述べた。BOT は今後についても、輸出や観光、国内需要や設備投資が冷え込む可能性を危惧している。これに対し、既に決定済みの財政・金融政策によって、企業や家計の債務負担を和らげ、資金供給が円滑化されている点に言及し、必要に応じて適切な金融政策を用いることで景気悪化の影響を軽減させていく姿勢を引き続き強調した。

1～3 月期の GDP 成長率は前年比▲1.8%のマイナス成長を記録した。BOT は年間ベースで同▲5.3%ないしそれ以上の景気減速を予測している。また、物価動向についても 4 月の CPI 上昇率は前年比▲3.0%と 3 月の同▲0.5%から 2 か月連続でマイナスに転じており、BOT の目標レンジ(+1.0～+3.0%)からの乖離が大きくなっている(図表 1,2)。こういった状況も今後の BOT による金融緩和を後押しするものと考えられる。

足許の景気が低迷している中で、THB は 5 月に入り上昇する展開となっている(図表 3)。要因としては、世界各国でロックダウンが徐々に解除され、タイ国内でも、商業施設や工場の稼働が再開されており、リスクオフムードが一段落したことなどが考えられる。一方で、輸出依存度の高い産業構造であるタイにとって、THB 高に転じることは痛手となり、BOT も通貨高への懸念に言及している。そのため、THB 高は正も BOT による今後の追加金融緩和の裏の意図として想定されるが、昨年からの政策金利は低下が続き、今回の会合では 0.50%となった。こういった中で BOT も安易に利下げに踏み込めなってきたり、今後の政策動向には注目が集まる。

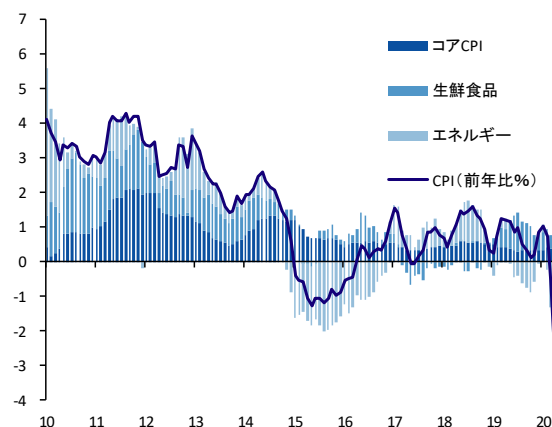
THB の動向については、今後上昇は一服していくものと予想する。その要因として景気が想像以上に減速している状況や、新型コロナウイルスの感染拡大の第 2 波が到来する可能性など、リスク要素が依然存在する点が挙げられる。また、BOT が追加の金融緩和を通じて、過剰な THB 高を牽制していくことも想定されよう。その一方、タイは域内最大の経常黒字を有する国であるため、通貨の上昇圧力がかかりやすい。今後の THB 動向を展望する上で、経常黒字の源泉となる貿易黒字を捻出し続けられるかが重要となる。その中で、新型コロナウイルスの感染が終息に向かうフェーズでは、内需のみならず、外需の回復状況にも注意を払っておきたい。

図表 1: タイの政策金利とインフレ率



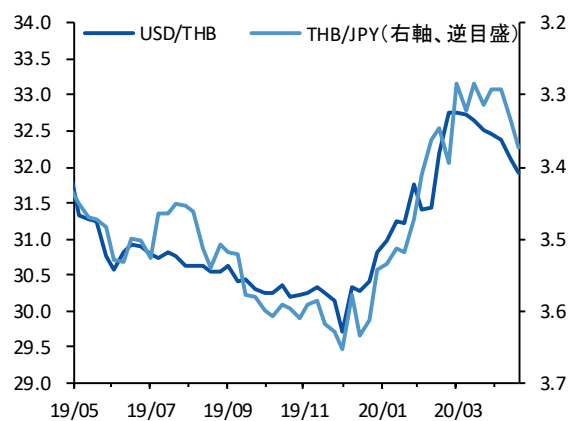
出所: タイ中央銀行、タイ商務省、CEIC、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移



出所: ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

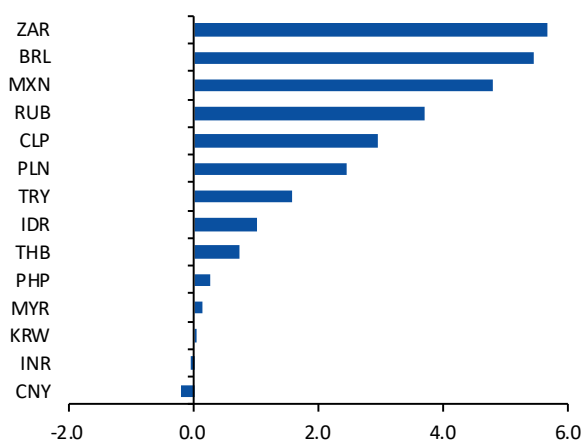
図表 3: THB の為替動向 (2020 年 5 月 20 日まで)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

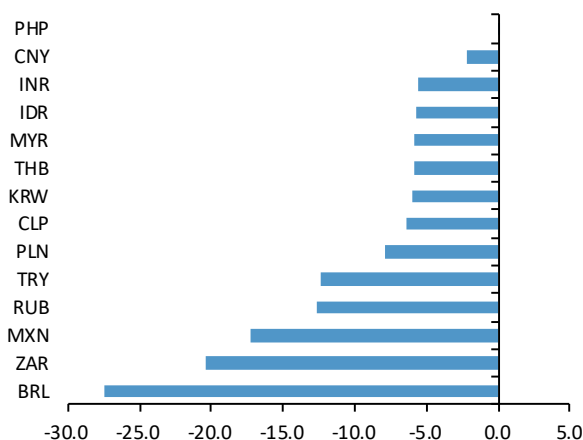
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



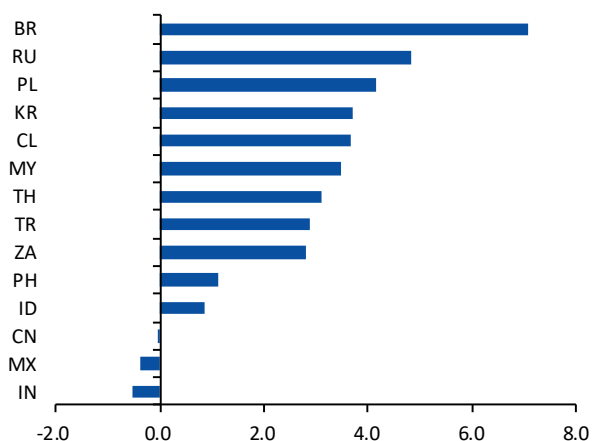
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



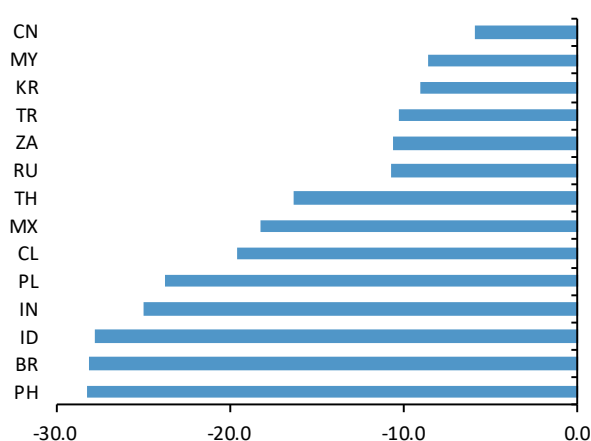
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



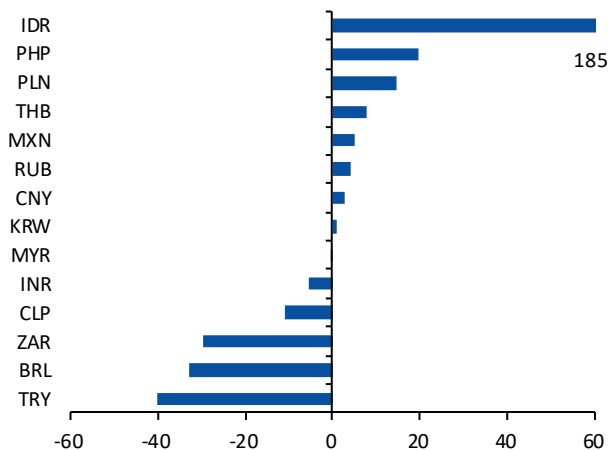
出所: ブルームバーク、みずほ銀行, ※中国は休場

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

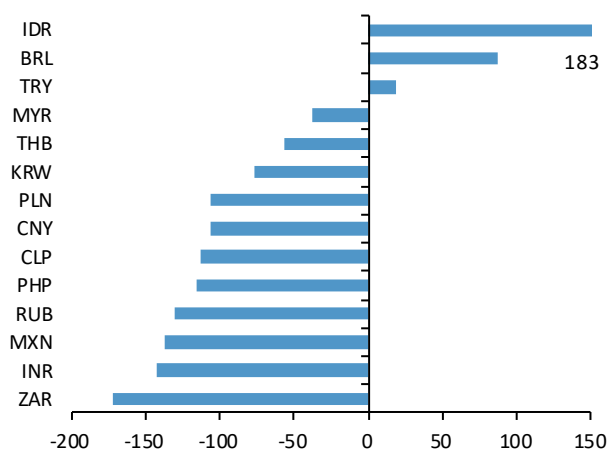
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりインドネシアの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

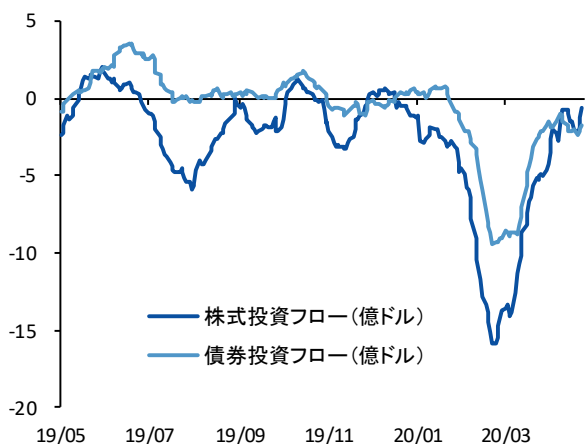
5 年物スワップレート年初来変化(bp)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

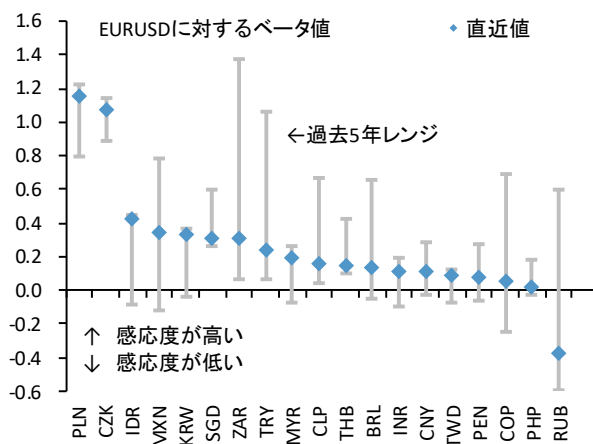
チャート集

主要新興国への証券投資フロー(4週間移動平均)



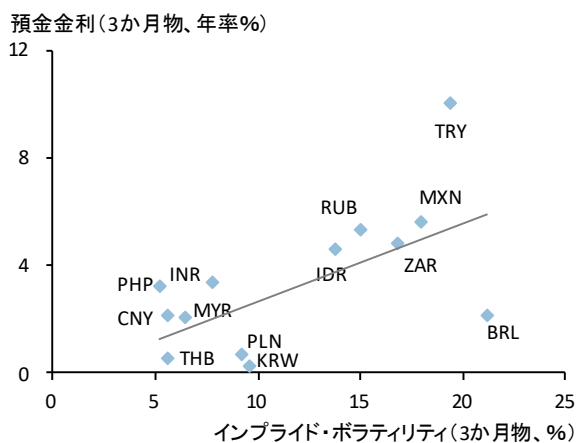
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



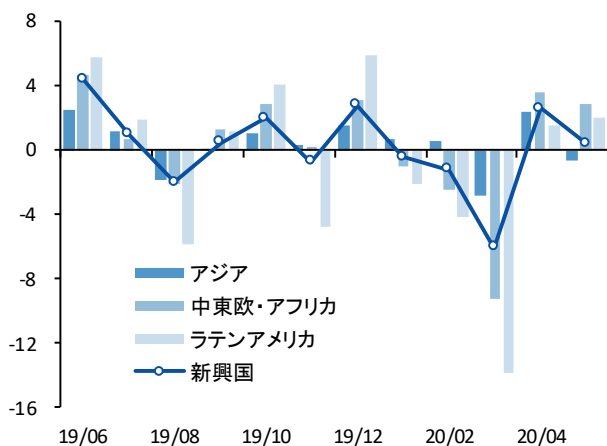
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



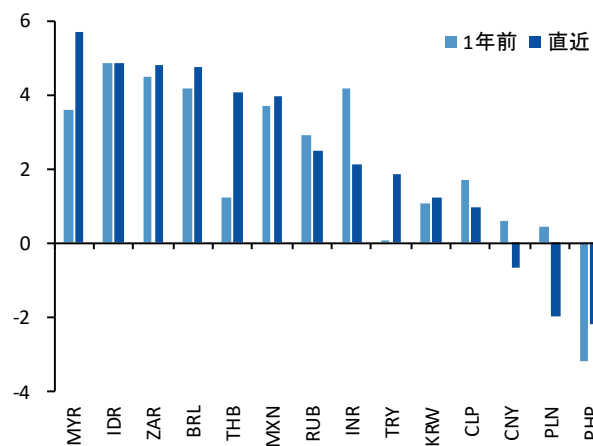
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月18日 (月)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	-5.0%	9.7%	17.6%	--
18日 (月)	タイ	GDP(前年比)	-3.9%	-1.8%	1.6%	1.5%
19日 (火)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リバースレホ	4.25%	4.50%	4.50%	--
20日 (水)	インドネシア	国際収支:経常収支	-\$3851m	-\$3924m	-\$8122m	-\$8082m
20日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	-1.6%	-2.9%	-0.2%	--
20日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	0.50%	0.50%	0.75%	--
20日 (水)	台湾	輸出受注(前年比)	-3.7%	2.3%	4.3%	--
20-29日	フィリピン	総合国際収支	--	--	\$839m	--
21日 (木)	韓国	PPI 前年比	--	-1.5%	-0.5%	--
22日 (金)	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$318m	--	\$1592m	--
25日 (月)	台湾	鉱工業生産(前年比)	--	--	10.4%	--
25日 (月)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-59.5b	--
25-29日	フィリピン	海外送金(前年比)	--	--	2.5%	--
26日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	--	70.8	--
26日 (火)	シンガポール	GDP(前年比)	-1.8%	--	-2.2%	--
26日 (火)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	--	--	16.5%	--
26日 (火)	シンガポール	CPI(前年比)	--	--	0.0%	--
27日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	--	50.0	--
28日 (木)	台湾	GDP(前年比)	--	--	1.5%	--
28日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レホレート	0.5%	--	0.8%	--
29日 (金)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	7.1%	--
29日 (金)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$697m	--
中東欧・アフリカ						
5月19日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	-2.1%	-2.1%	-2.0%	-1.8%
20日 (水)	ロシア	GDP(前年比)	1.8%	1.6%	2.1%	--
20日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	1.1%	2.0%	1.2%	--
21日 (木)	トルコ	1週間レホレート	8.25%	8.25%	8.75%	--
21日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	-10.5%	-6.6%	0.3%	--
21日 (木)	南ア	SARB政策金利発表	3.75%	3.75%	4.25%	--
22日 (金)	トルコ	設備稼働率	--	--	61.6%	--
26日 (火)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	-15.0%	--	5.6%	--
26日 (火)	ロシア	実質賃金(前年比)	3.2%	--	5.7%	--
27日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	4.1%	--
28日 (木)	南ア	PPI 前年比	--	--	--	--
29日 (金)	トルコ	貿易収支	--	--	-5.39b	--
29日 (金)	南ア	貿易収支(ランド)	--	--	24.2b	--
ラテンアメリカ						
5月21-29日	ブラジル	登録雇用創出合計	76,381	--	-307,311	--
22日 (金)	メキシコ	小売売上高(前年比)	-1.0%	--	2.5%	--
25日 (月)	メキシコ	貿易収支	--	--	3391.8m	3398.0m
26日 (火)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	--	--	-1.6%	--
26日 (火)	ブラジル	経常収支	--	--	\$868m	--
28日 (木)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	5.6%	--	6.7%	--
28日 (木)	ブラジル	融資残高	--	--	3587b	--
29日 (金)	ブラジル	GDP(前年比)	--	--	1.7%	--
29日 (金)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	51.7%	--

注: 2020 年 5 月 22 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2020年 1～4月（実績）	SPOT	2020年 6月	9月	12月	2021年 3月	6月
対ドル								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	6.8406 ～ 7.1281	7.1158	7.05	7.00	7.00	6.95	6.90
香港ドル	(HKD)	7.7500 ～ 7.7989	7.7547	7.77	7.78	7.79	7.80	7.81
インドルピー	(INR)	70.705 ～ 76.909	75.615	75.0	73.2	73.8	72.4	71.0
インドネシアルピア	(IDR)	13577 ～ 16625	14710	16250	16150	15950	15900	15850
韓国ウォン	(KRW)	1150.65 ～ 1296.75	1230.90	1200	1180	1160	1160	1160
マレーシアリングギ	(MYR)	4.0515 ～ 4.4490	4.3457	4.42	4.40	4.35	4.30	4.25
フィリピンペソ	(PHP)	50.370 ～ 51.823	50.615	50.8	50.7	50.5	50.5	50.4
シンガポールドル	(SGD)	1.3446 ～ 1.4647	1.4174	1.41	1.38	1.40	1.38	1.37
台湾ドル	(TWD)	29.723 ～ 30.486	29.940	30.0	30.0	29.9	29.8	29.7
タイバーツ	(THB)	29.97 ～ 33.18	31.83	32.1	31.5	31.7	31.4	31.0
ベトナムドン	(VND)	23170 ～ 23637	23260	23360	23200	23300	23200	23160
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	60.8860 ～ 82.8386	70.9790	75.00	73.00	70.00	67.00	70.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.9326 ～ 19.3508	17.5840	17.50	17.00	16.50	16.00	16.50
トルコリラ	(TRY)	5.8391 ～ 7.0077	6.7899	7.20	7.30	7.50	7.10	7.30
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.0044 ～ 5.7475	5.5536	5.20	5.10	5.15	5.10	5.05
メキシコペソ	(MXN)	18.5237 ～ 25.7849	22.8815	23.50	23.00	23.25	23.00	22.75
対円								
エマーGINGアジア								
中国人民元	(CNY)	14.567 ～ 16.108	15.136	15.04	15.00	14.86	14.82	14.78
香港ドル	(HKD)	13.020 ～ 14.422	13.879	13.64	13.50	13.35	13.21	13.06
インドルピー	(INR)	1.367 ～ 1.566	1.423	1.41	1.43	1.41	1.42	1.44
インドネシアルピア	(100IDR)	0.642 ～ 0.817	0.732	0.652	0.650	0.652	0.648	0.644
韓国ウォン	(100KRW)	8.408 ～ 9.660	8.725	8.83	8.90	8.97	8.88	8.79
マレーシアリングギ	(MYR)	24.148 ～ 27.278	24.791	23.98	23.86	23.91	23.95	24.00
フィリピンペソ	(PHP)	2.006 ～ 2.213	2.127	2.09	2.07	2.06	2.04	2.02
シンガポールドル	(SGD)	73.18 ～ 81.92	75.93	75.18	76.09	74.29	74.64	74.45
台湾ドル	(TWD)	3.364 ～ 3.708	3.596	3.53	3.50	3.48	3.46	3.43
タイバーツ	(THB)	3.215 ～ 3.729	3.379	3.30	3.33	3.28	3.28	3.29
ベトナムドン	(100VND)	0.4364 ～ 0.4829	0.4627	0.45	0.45	0.45	0.44	0.44
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.306 ～ 1.804	1.518	1.41	1.44	1.49	1.54	1.46
南アフリカランド	(ZAR)	5.610 ～ 7.821	6.120	6.06	6.18	6.30	6.44	6.18
トルコリラ	(TRY)	15.222 ～ 18.875	15.849	14.72	14.38	13.87	14.51	13.97
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	18.701 ～ 27.687	19.383	20.38	20.59	20.19	20.20	20.20
メキシコペソ	(MXN)	4.226 ～ 6.013	4.704	4.51	4.57	4.47	4.48	4.48

注: 1. 実績の欄は 2020 年 4 月 30 日まで。SPOT は 5 月 22 日の 8 時 40 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。